

2021年APAC会議参加報告

独立行政法人製品評価技術基盤機構
認定センター (IAJapan)

1. はじめに

2021年APAC会議は、COVID-19感染拡大を受け、昨年につき、すべての会議がオンライン形式で開催された。

2. 開催日程

- 4月11日 APAC 技術委員会1 (Technical Committee 1)
- 5月 7日 APAC 技術委員会2 (Technical Committee 2)
- 5月18日 APAC能力強化委員会 (Capacity Building Committee)
- 5月20日 APAC広報委員会 (Communications and Promotion Committee)
- 6月24日 APAC総会 (APAC General Assembly)

3. 会議の概要

各委員会における主な決定事項および議論の内容は以下のとおり。

3-1. APAC 広報委員会 (Communications and Promotion Committee)

○APAC Strategic Plan2019-2021 に対する CPC の取り組み

- ・2021 年の取り組みとして、ステークホルダーとの関係構築のためのパンフレットの作成やオンラインイベント、SNS の活用等が挙げられた。
- ・2022 年は広報用コンテンツをさらに増やす予定。ステークホルダーのターゲットとしては、①自動車分野②情報通信分野③環境・エネルギー分野を予定。

○ステークホルダーとの関係構築のためのプラン

ステークホルダー毎 (ビジネス、消費者) や分野毎に WG を作り、各々のアクションプランを立案している。今年度は計画段階で、案が固まったものからパンフレット、チラシ、動画、ウェビナー開催などを順次進めていく予定。

規制当局への働きかけも分野を絞って取り組んでいる。今年度は食品や保健分野。関係構築のために政府機関へのウェビナーでの講師参加等を行っている。

3-2. APAC 能力強化委員会 (Capacity Building Committee)

○2022-2023年研修計画

APAC参加認定機関宛にAPACメンバーにアンケートを実施し、回答結果を元に2022-2023年の研修計画が紹介された。なお、2022年の研修も全てオンラインで行われる。

- ・2022年：ワークショップ2件、研修8件、ウェビナー1件、eラーニング1件
- ・2023年：研修7件、ウェビナー2件、ワークショップ1件、eラーニング3件

○SANAP 2プロジェクト (発展途上国の認定機関の教育訓練に関する、APACとPTBの共同プロジェ

クト、2018/03-2022/02（予定）の活動報告が行われた。

○APAC Strategic Plan2019-2021に対するCBCの取り組み

APAC Knowledge Centerの開設、オンライン研修の実施、他のAPAC委員会への参加、SANAPの実施等が挙げられた。

また、活動拡大のための提案として、インド政府機関QCI（ILAC、IAF署名機関ではない品質管理を専門とした機関）のEQUESTというオンライン研修用プラットフォーム（参考：eQuest - Quality Council of India）が紹介された。

3-2. APAC 技術委員会1（Technical Committee）（対象：ラボラトリー、RMP、検査機関）

○ リモート審査にかかる合同APAC TC1/TC2 WG

「APAC TEC0-001 Guidance on Remote Assessments」が2020年10月20日に制定された旨、報告があった。

○ バイオバンク認定

2020年2月のAPAC投票をもって、バイオバンク認定をAPAC MRAの対象とすることについて承認されたが、ISO/IEC 17011上ではバイオバンク認定について言及されていない。認定経験のあるA2LAを中心に必要な文書の制定/改訂が検討されている。今回、「Guidance on Scopes of Accreditation for Biobanks」の新規制定案について報告があり、WG内でコメント投票結果に基づき引き続きWG内で検討していくとの報告があった。

○ 技能試験Subcommittee報告

「APAC FGOV-013 Terms of Reference - Proficiency Testing Sub-Committee」「APAC FTEC2-001 APAC Proficiency Testing Program Proposal Form」に関する改正案承認のためAPAC理事会に提示されることとなった。主な改正内容はDecision Making processの見直し。

その他、APMPとのJoint PT開発の推進について報告があった。

○ 校正WG報告

「Guidance on the metrological traceability of coils used to calibrate clamp-style current meters（クランプ電流計を校正するために使用されるコイルの計量トレーサビリティ確保に関するガイダンス）」制定のためSub-Working Groupを設置し議論しているとの報告があった。

○ 標準物質WG報告

「TEC1-008 APAC Guidance on Reference Material Use and Production」改正の必要性について、APAC PTP&RMP WG（5月開催）の中で意見を徴収するとのこと。

3-2. APAC 技術委員会2（Technical Committee）（対象：認証機関）

各WGからの主な報告事項は以下のとおり。

○APAC 製品認証 WG

2021年4月21日に実施されたAPAC Product WGのオンライン会議の結果について報告があっ

た。主な議論の内容は以下のとおり。

- ・ 認証機関の審査の頻度
スキーム次第。スキームで特にきめがなければ、その頻度の正当性を認証機関が示す。
- ・ ウィットネスの回数
スキームで決まっていればそれに従う。認証の決定に立ち会うというのもあり。
- ・ 認証機関ボードが公平性確保のメカニズムとなるのか
利害関係が含まれているか、実態として機能しているかが重要。
- ・ FSSC などの一部のスキームで遠隔ウィットネスが認められていない
IAF としては遠隔審査を full 又は partial で組み込むべきと考えており、スキームと相談する必要がある。現地認定機関と協力して実施も考えられる。
- ・ 認定シンボルの製品に対する使用
ILAC では全面禁止だが、IAF では混乱を招くことを避けることを要求しているだけ。認定機関ロゴとの組み合わせで使用することで認めている認定機関もある。
- ・ IAF で新規制定について検討中の MD 文書「適合性評価スキームの適切性評価」について
この MD はプライベート認証スキームに負荷がかかる。当初は IAF MLA レベル 5 のための文書であったはずがいつの間にか変わってしまった。今後も要監視。

○サステナビリティ WG

- ・ ISO 14065 の新版が 2020 年 12 月に制定（移行期間は 3 年）。
- ・ 環境フットプリントの適合性評価に関するガイダンスを開発中。ただし、WG メンバーの専門性から製品のカーボンフットプリントに焦点を当てて、他の活動には適用されない。要員と検証プロセスにフォーカスされる予定。
- ・ ISO 14020 シリーズの改正について質疑があり、ISO 14020 シリーズは異なるタイプの環境に関する statement を扱っており、環境 statement プログラム（スキーム）やエコラベル（例えば ISO/IEC 17065 適合の製品認証）と、環境 statement に関するライフサイクル評価（カーボンフットプリントや EPD; 製品よりもデータに重きを置いており ISO 14065 の下での V&V がより適切）があると事務局から説明があった。

3-2. APAC 総会

- ISO/IEC 17025:2017 への移行期間は、2021 年 6 月 1 日に終了したことが確認された。APAC メンバーは、この規格の新版への移行を完了していないラボに対して適切な措置を講じる必要がある（認定の一時停止、取り消しなど）。
- 総会は、バイオバンク認定のためのスコープに関する APAC ガイダンス文書の新規制定 (APAC TEC1-001)、技能試験関連文書 (APAC TEC2 series) のアップデートを含めた報告内容について了承する。
- 総会は、現在 APAC MRA 評議会では投票が実施されている贈収賄防止マネジメントシステム (Anti-Bribery Management Systems) の APAC MRA スコープ拡大の提案を含め了承した。
- 各会議の報告事項について了承された。
- 次回、APAC 総会は 7 月にインドネシアで開催される予定。

以上